

第2回 富士見市安全安心なまちづくり防犯推進市民懇談会
会議録

日 時 平成31年2月27日(水) 19:00~19:40

場 所 富士見市役所 市長公室

出席者 ◎市民懇談会

藤井	清野	高野	羽石
○	×	○	×
清水	高橋	傍嶋	
○	○	○	

◎事務局

【自治振興部】

市川自治振興部長

【安心安全課】

落合課長・荒野副課長・田中主事

- 1 開 会
- 2 座長挨拶
- 3 報告事項

平成30年度の計画進捗について

事務局より平成30年の犯罪情勢および、市の取り組みについて説明を行った。
質疑等は以下の通り。

参加者) 車上狙いについて、ディーラーでも盗難されにくいナンバープレート等工夫していると聞く、埼玉県では特に多いとも聞いたが、どのくらい発生しているのか。

事務局) 表の数字は警察に被害届があった件数について記載している。小さな部品等の被害であると被害者が被害届を出さず、警察が被害を確認できないケースもあると想像できる。

参加者) 車両の部品だけでなく、消火栓の金具なども高く売れると聞いたことがある。

事務局) 市の施設でも水道の金具等が被害に遭った。

参加者) 埼玉県の県立高校でバイク通学が許可されたと聞いた。高校生に事故防止のための交通安全指導が必要に思う。

参加者) 登校時の見守りを行っているが、以前来ていたスクールガードリーダーさ

んが最近来ていない。それぞれがばらばらの思いで行っていても効果が少ない。

事務局) スクールガードについては学校の管轄であるが、今後情報の交換ができるような仕組みを考えたい。

参加者) 川口市の小学校で行われた宮田先生の指導による防犯教室に参加した。声をかけられた際の断り方など、参考になった。また、地域であいさつを交わし、コミュニケーションを取っていくことで子どもが被害に遭った際を目撃者を増やすことが大切という考え方には共感できた。富士見市でもこういった催しを行っていくべきだと思う。

事務局) 事例として研究させていただく。

参加者) 自主防犯リーダー講習会は来年度も行うのか、一般参加者は町会に依頼をかけたのか。

事務局) 来年度も実施する。一般参加者は回覧されたチラシやホームページ等をご覧になって申込みいただいた。地域活動の第1歩として、希望する方には町会の連絡先をお教えして、町会と一般参加者をつなげる活動を行った。

参加者) 街頭防犯カメラ補助制度によって、本年度は何個設置されたか。

事務局) 本年度は各団体でカメラ設置の予算を立てていなかったこともあり、設置に向けた相談にとどまっているが、相談件数は多くある。
来年度に向けて各団体で予算化を検討している段階である。

参加者) 公共施設、集会所への設置予定はあるか。

事務局) 公民館、交流センターについては来年度施設監視カメラを設置する予定。
集会所については周辺住宅の映り込み等の課題があり、現在設置予定はない。

4 情報交換・懇談

平成30年度の防犯への取り組みならびに課題について各参加者より情報交換・懇談を行った。内容は以下の通り。

参加者) 防犯のまちづくり県民大会に参加したが、携わる方の高齢化を強く感じた。自主防犯リーダー講習会で宮田先生も次世代の参加者が育っていないと言っていた。ながらパトロールなど、身近にできる防犯活動の手法を広めていく必要があると思う。

参加者) 文部科学省では携帯電話やスマートフォンの小中学校への持ち込みを原則禁止した文科省通知を見直す方向で検討を始めたが、いかがか。

参加者) 校長会でも協議したが、スマートフォンでは子供を守り切れないと考える。また、スマートフォンを所持することによって犯罪に巻き込まれる可能性等の弊害も否定できない。子供の安全には学校と地域が強調して取り組むことが大切であると考え。子ども会で保護者に聞いてもみたが、子どもに持たせること自体反対という意見がほとんどだった。

参加者) 青少年育成市民会議で子ども110番の家の三角旗を配布しているが、設置している家の居住者の高齢化などで、本来の役割が果たせないケースも

想像できるので、学校関係者と今後見直しなどを考えたい。

参加者) ボロボロになっている旗も地域でよく見かける。日常のメンテナンスが必要だと考える。また、PTAは役員の入替わりが激しいので、定期的な周知を行っていくことが大切。行政任せもよくない。

参加者) 学校応援団など他の組織に協力を求めることもできると思う。

参加者) 最近、夜回りしている人を良く見かける。とても良いこと。

参加者) 夕方は塾や習い事の送り迎えで保護者の目が比較的届く。夜間にパトロールを行ってもらうことはとても安心できる。

事務局) 市内では55町会すべてに自主防犯組織を結成していただいている。

市としてもパトロール用品を配布するなど、活動支援を行っているが組織率としては県内でも高い水準であると認識している。

参加者) 新聞を購読しているが、折り込みチラシの中に振り込め詐欺対策のチラシがあった。こうしたチラシを広報に織り込み、冷蔵庫などよく目にする場所に貼ってもらうなどすれば効果的と思う。

事務局) より効果的な方法を模索し、今後取り組みたい。

5 その他

事務局より彩の国犯罪被害者ワンストップ支援センターの説明を行った。

6 閉 会

以上